

みんなとともに笑顔いっぱい — 創立百周年 その先の未来へ みんなとともにスマイルミッション —



みんなとともに

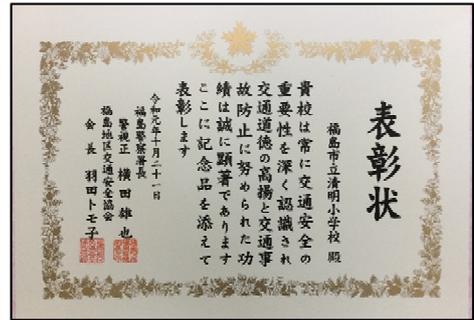


日曜日は、創立百周年記念の学習発表会です。子どもたちは、「だいじょうぶ みんなとともに協力し心に残る感動を！！」をテーマに、練習に励んできました。また、「創立百周年記念アトラクション」として、「福島ユースオーケストラ」の皆様が「弦楽四重奏」で花を添えてくださいます。保護者の皆様にも支えていただいて、子どもたちの思い出に残る学習発表会にしたいです。



「交通安全優良団体表彰」を受けました。

10月21日（月）に「福島テルサ」で表彰状があり、福島警察署長と福島地区交通安全協会長の連名の表彰状をいただきました。受賞理由は分かりませんが、おそらく「福島市交通対策協議会 清明小学区支部」が「交通事故死者ゼロ7000日」を達成したからではないかと思います。これからも、「交通事故ゼロ」を目指して子どもたちへの指導を行っていきます。



【校長のつぶやき】 その18 「“イチヨウの実” は、なぜ臭うのか」 - 校長の自由研究 -



校庭の南側に、「イチヨウの木」が3本ある。10月に入って毎日のように「実」が落ち、あの「独特の臭い」を発している。本校の通学路でもあるので子どもたちが踏んででは可哀想だと思い、なるべく登校前にきれいにしようと思うのだが、毎日毎日結構な量が落ちていて、既に車に踏まれてもいる。また、校庭の中は臭いつかず、どうしようもない状態になっている。

掃除をしながら、「この世に起きる出来事がすべて必然である」ならば「イチヨウの実が臭いのも何か意味があつてのことだろう」と思った。そして、普通だったら「動物に食べてもらって糞として排泄されることで、種子を遠くに運び、種を存続させようとする」のに、「動物に嫌われる臭いを発するのはなぜか」と不思議に思った。そこで、安易ではあるが、ネットで調べてみた。

〈分かったこと〉

その1 「イチヨウの実」が臭いの、**「動物に食べられないようにするため」**である。

私たち日本人は「銀杏（ぎんなん）」を食べるが、タンパク質や多くのビタミンを含む「大変栄養価の高い食材」である。栄養価が高いということは、「動物が好む食べ物」ということになる。でも、「イチヨウの木」の立場からすると、すべてを食べられてしまうと、種を残すことができない。そこで、「イチヨウの木」は、わざと「イチヨウの実」が「独特の臭い」を発するようにしたい。

その2 「イチヨウ」には「雄株（オス）」と「雌株（メス）」があり、「イチヨウの実」がなるのは「雌株」である。

ということは、校庭南側の「イチヨウの木」は、一番西側の木が「雄株」で、東側の2本の木が「雌株」ということになる。街路樹として植える際は、最近は「雄株」を選んで植えることもあるそうである。

その3 「イチヨウの実」を踏んでしまったら、「重曹」を使うことで臭いを消すことができる。

これを実験で明らかにすれば自由研究として素晴らしいのだが、靴底についた「イチヨウの実」を水で洗い流し、「重曹」を溶かした水に数時間つけることで臭いは消えるそうである。

なお、ここまで「イチヨウの実」と呼んできた部分は、裸子植物のため「実」ではなく「種子」であり、臭いのする部分は「外種皮」、「銀杏（ギンナン）」として食べている部分は「胚乳」である。

今回調べてみて、「イチヨウの実」の臭いさえも、そのような臭いを発する「意味」がある、ということを確認することができた。

とは言っても、あの臭いには困ったものである。そんなときは「銀杏（ぎんなん）」の美味しさを思い出し、「人間にとって、よいこともあるさ」と、つぶやいてみようと思う。